

～～第8443回～～

八高山

～H30. 5. 20～

富士宮支部では珍しく西方面に車を走らせる。新富士 IC から新東名の金谷 IC で降り R473 で SL と桜の名所の家山方面の福用駅まで車で移動する。無人駅ではあるが、駐車場に 5～6 台は止められるスペースとトイレもあるので有難い。駅から 100m 位先の左側に八高山の急傾斜コースの大きな案内板が有り、その向いの JA 支所の広場で準備体操とストレッチを行い登山開始。まもなく、白光神社の境内の左側からいよいよ坂道に取り掛かる。落葉が山道に敷き詰められているのといきなり急登で、年齢のせいか自律神経の順応が遅れ、後ずさりしそうになる。なるほど看板通りの急坂コースだ。両脇の地層を見ると、堆積層で、石と細かい土が重なり、遥か昔の海底か、まだ若い地殻変動の痕跡を垣間見る。木立の中を心地良い風が通り抜け、急坂コースを快調に進む。少し傾斜が緩やかになった所が五輪段となる。植林の管理がされていて、周りの景色が開け、林の中に、こあじさいが群生して咲乱れ情景に明るさを増す。伐採した後、次の苗木に鹿の食害から守る為、ネットでカバーしてあり、開けたその先に八高山の全貌を見る事が出来る。なだらかな道を進むとまもなく馬王平に着く。富士山が山際の雲の上に、うっすらと見えた。天気の良い時の富士山は案内表示板の中の写真ではっきり見えるので、場所の特定は容易だ。この付近は掛川方面や家山方面とつながる林道が交錯し、車両規制が無ければ、容易に来られそうだ。休憩後、すぐ先の左側の登山道に入り、高度を稼ぐ。まもなく、TV 用の 2 枚の反射板が現れた。昭和 37 年に静岡放送が日本平から浜松までの送信中継基地として使われ、地元の子供たちが機材を麓から運んだのだそうだ。ジュラルミン製で縦横 10m、2 枚もあり、分割して運んでも、結構、厳しい搬送と思われ、当時の子供たちの体力はたいしたものだ。でも、良く考えると、自分達と似た年代で、誇らしく思ったりする。急登を続ける内に、大木を構えた白光神社の奥ノ院に着く。質素だが歴史を醸し出す周囲の風情がある。その中の大木で、何本かは弱っているのがあるので、手当てが必要か。これを抜けると八高山標高 830m の山頂に着く。一等三角点の山だが、展望は少しだけ開けている。この時点では、富士山は既に雲の中に隠れて見る事が出来なかった。ここでゆっくりと昼食をとり、下山開始。ウラボシやクマノヒゲの花が名残惜しく咲いた脇を同じルートで進む。白光神社奥ノ院を過ぎる時、階段の所で、樹上で根を張り生活する風蘭を発見。見上げると、老木に風蘭が着生しているのが見える。多分、強風で枝が折れて落ちてきた一部かと思われる。更に下り、TV 用の反射鏡の所からは、登りの時、急登で何回かアップダウンしては林道コースに戻った悔しさを学習したので、迷いなく林道を使い馬王平に足を運ぶ。この後、林道脇に開花直近の笹ゆりの蕾を写真に納めた。五輪段からの下りもなだらかなコースで膝の負担を軽減し福用駅まで足を運ぶ。駅前で身支度後、車で金谷 IC から新東名経由で無事、富士宮に到着。

参加者：10 名

天候：晴れ

地図：八高山・家山

コースタイム：富士宮 700＝新富士 IC 705＝新東名経由金谷 IC＝福用駅 805-23…五輪段 939-45…馬王平 1030-35…反射鏡 1103…白光神社奥の院 1130-35…八高山頂上 1140-1226…反射鏡 1246…馬王平 1300-09…五輪段 1337…小立トンネル 1342…福用駅 1438＝富士宮 1600

記録：富士宮支部 T.S.



白光神社からの急斜面コース



つつじ



明るい植林



八高山の全貌



コアジサイ



八高山全貌



馬王平からの富士山



白光神社奥の院



頂上にてわがメンバー



林道沿いに開花を待つ笹ユリ